

# 100年企業を訪ねて

～長寿企業のたゆまぬ努力とその魅力に迫る～

## File 01 / (株) 清水園

### 変わりゆく時代に、変わらない心を 磨き抜かれたおもてなしを未来につなぐ

しみずし まこ  
清水志摩子

(株)清水園 代表取締役社長

1945年、愛媛県八幡浜市生まれ。清水園5代目となる夫・清水猛から2006年に事業を引き継ぐ。清水園再建とあわせて「NPO法人全国おかみさん会」理事長、「さいたま観光国際協会」会長などの要職を歴任。

しみず たかまろ  
清水孝磨

(株)清水園 専務取締役

1996年生まれ。2022年6月専務取締役に就任。



明治3年創業の老舗・(株)清水園のルーツは江戸期にまで遡る。氷川神社のお膝元、婚礼や大規模なパーティーの舞台として、地元の人々に愛され、多くの著名人が訪れたハレ舞台だ。7月のリニューアルオープン控え、長年にわたって同社の顔として活躍する清水志摩子社長と、次代を託された清水孝磨専務にお話を伺った。

#### 氷川様とのご縁も深く、大宮きっての老舗料亭に

清水園のルーツは、慶応年間に寺社奉行に勤めていた佐倉藩士・清水うちゅうだと伝わっています。彼が武蔵國大宮に移って商いを始め、二代目・友吉が営んだ蕎麦屋が大繁盛したことから、割烹料理や洋食にも手を広げました。当時は珍しい3階建ての本店で、屋上に設けた水盤に屋形船を浮かべて夏は水柱を立て芸者衆がうちわであおぎ楽しんだという逸話からも、その盛況ぶりが伺えます。



広大な敷地は豊かな緑と池、池に彩られ、「清水公園」と親しまれた。

その後、店を移築したのが、現在の清水園がある氷川神社参道そば。水と緑に彩られた1万坪を超える敷地には、本館の他にも趣向を凝らした離れ屋が20以上あり、かつては温泉も湧いていたとか。東京からのアクセスがよく、多彩な楽しみ方ができる名店として、一般のお客様はもちろん政財界の人物や文化人が集い、名声を高めていきました。

#### 中興の祖の手腕で、結婚式・披露宴といえば「清水園」が定着

明治初頭から戦前まで約半世紀にわたり「清水公園」と親しまれた広大な土地は、戦後の混乱や相続によって縮小してしまいましたが、この危機を救ったのが三代目・清水ふさです。埼玉県で女性初の自動車免許を取得するなど、先進的な考えと行動力を併せ持った名女将でした。

ふさは1953年に「清水園」を株式会社に改組し、同時に県内最大の150畳の大広間を持つ豪華な建物への改装も行います。料亭旅館を超え、結婚式場・披露宴会場にも経営を広げた結果、氷川神社で神前式を挙げ、清水園で披露宴を執り行うのが、大宮っ子のステータスとなりました。

#### 窮地に陥っていた清水園を「きちんと正しいハレの場」に

私・志摩子は、当社においては六代目となります。ふさの後、四代目を継いだのは清水時子と婿である常夫。そして五代目が私の夫である清水猛です。1974年にふさが他界した頃は、何度も相続やオイルショックによってかなり経営が厳しくなっており、土地を切り売りしながらしのぐような状況でしたが、どうしても再建したいという夫の願いに応じ、共に経営に携わるようになりました。

私が代表となってまず掲げたのは「明朗会計」「安心安全」そして「おもてなしの向上」というテーマです。チップなどの不透明な慣習を改め、スタッフの守秘義務を徹底するなど、今でいうコンプライアンス教育にも力を入れました。あわせて西洋式ホスピタリティと料亭のおもてなしの融合を図り、お客様が安心してくつろげる「きちんと正しいハレの場」への磨き上げを図ったのです。地元愛の強いスタッフの理解もあり、みんなで努力を続けた結果、清水園は再びにぎわいを取り戻しつつありました。

#### 新たな時代に歩みだすため コロナ禍でも守り抜いた雇用

そんな折、世界を襲ったコロナ禍によって、飲食・イベント業界は大きな打撃を受けることになりました。しかし、ここでも私たちの心は折れませんでした。多くのイベントが中止となる中でも予定通りに新館リニューアルの計画を進め、ビヨンドコロナを共に歩む社員教育に力を入れてきたのです。

ビヨンドコロナの2024年7月、満を持して皆様にお披露目する新館は、七代目となる孫の清水孝磨が中心となって推進しました。氷川参道の緑を借景にした、優雅なアーチを描く大ホールは、さいたまの新たなにぎわいの発信地となることでしょう。

幾代にもわたってご愛顧くださるお客様に感謝を込めて、「清水園としてあり続けること」。それが当社の変わりぬ誓いです。



2024年にリニューアルオープンする清水園新館。優美な姿の新たなランドマークが生まれる。